

事業評価調書

◎基本情報

年度	令和3年	会計コード	10	一般	事業コード	25185	
事業名	総合的環境教育推進費						
評価担当課	所属名	環)環境都市推 環境政策課					
	課長名	東館雅人	担当者名	佐野慎一郎	電話番号	011-211-2877	
施策名	主	市民・企業による環境負荷低減の取組の推進					
	副						
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外		戦略ビジョン	● 対象 ○ 対象外			
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理						
事業内容	実施形態	○ 直営 ● 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助助成 ○ その他					
	目的	短期	2022(令和4)年度までに「エコライフレポート」の提出率97.5%を目指す。 ※札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2019の事業目標				
		長期	札幌の将来を担う子どもたちが、環境に関する教育や学習の機会を通して成長し、大人になっても継続して環境に対して関心を持ち、自主的な環境配慮行動を取る。				
	取組内容	「札幌市環境教育・環境学習基本方針」に基づき、環境教育を推進する。 ①札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会の運営 ②環境副教材の作成・配布 ③校外学習用バスの貸出 ④企業からの寄附を財源とする環境教育教材の寄贈 ⑤さっぽろこども環境コンテストの運営 ⑥夏休み・冬休みエコライフレポートの発行					
実施結果	①札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会を1回開催 ②例年通り市立小学校の新1、3、5年生に配布 ③市立小中学校29校にバス貸出(94台)を実施 ④希望のあった市立小中学校41校へ教材を配布 ⑤新型コロナウイルス感染症対策のため、発表会形式から発表の様子を収録し、オンラインイベントで動画を公開する形式に変更 ⑥夏休み・冬休みに全市立小中学校へ配布、実施率は93.2% ⑦例年通り関係各所に配布 ⑧市内10か所の会場で計66名が参加						
事業実施における工夫点	効果的に意識の醸成や行動の促進を図るため、教育委員会や学校の意見も聞きながら、子どもに伝わりやすい事業構築、情報提供を行っている。						
対象者	子どもやその家族など			開始	平成23年度	終了	0年度
関連法令・条例・要綱等	環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律 環境基本法、札幌市環境基本条例						
他都市の状況	藤沢市では環境活動へのクリック募金事業を行っており、また長野市では環境こどもサミットなどの環境発表会を実施するなど、本市と同様の取組を行っている。						

◎事業費

(単位:千円)

		令和2年度決算	令和3年度予算	令和3年度決算	令和4年度予算
事業費		7,390	20,000	13,436	17,000
うち特定財源		2,009	8,515	5,477	7,230
人工		1.9	1.8	1.8	1.8
人件費		13,680	12,960	12,960	12,960
計(事業費+人件費)		21,070	32,960	26,396	29,960
事業費の内訳	令和3年度決算	・郊外学習用バス貸出:5,073千円 ・こども環境コンテスト:1,164千円 ・エコライフレポートの配布:1,383千円、環境教育支援教材の配布:1,321千円 ・環境副教材の作成:2,863千円、環境教育ワークショップ:1,187千円 ・環境教育・環境学習ガイド:199千円、その他:246千円			
	令和4年度予算	・校外学習用バス貸出:5,137千円 ・こども環境コンテスト:2,086千円 ・エコライフレポートの配布:1,454千円、環境教育支援教材の配布:1,810千円 ・環境副教材の作成:4,160千円、環境教育ワークショップ:1,424千円 ・環境教育・環境学習ガイド:199千円、その他:730千円			

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	環境教育教材配布校の累積校数(校)			
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
	551	591	592	632	
活動指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度予定	令和3年度実績	令和4年度予定	
成果指標1	指標名	エコライフレポートの提出率(%)			
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
	93.9	96.5	93.2	97.5	
成果指標2	指標名				
	令和2年度実績	令和3年度目標	令和3年度実績	令和4年度目標	
項目	判定	理由			
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	B	エコライフレポートの提出率は、目標数値には達しなかったものの、今年度から新たに小学4年生以上には自分でエコにつながると思う行動を考えて実践してもらったことにより、子どもたちから多くのアイデアが寄せられ、環境保全に関する意識の向上が見られた。			
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	各事業は、学校現場や教育委員会等の要望やニーズを把握しながら取組を展開しており、事業規模は適切である。			
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	環境教育ワークショップでは、本部のファシリテーターから5か所の児童会館等の会場でオンラインでプログラムを提供し、各会場では対面での対話するとともに会場間はオンラインで意見交換するなど、オンラインと対面をミックスした形式とすることで、各地域の子どもたちが参加しやすく、保護者や先生の引率などがいらぬため、効率的に実施することができた。			
対象者の満足度 (対象者のニーズに応えているか)	A	校外学習用バスの貸出は、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止したが、今年度は感染症対策のためバス1台当たりの座席数を減らして実施した。貸出校からは、コロナ禍における貴重な校外学習の機会となったなど感謝の声をいただいた。また、環境教育ワークショップは、2回の実施で計66名の児童が参加した。アンケート結果では約80%の児童が「楽しかった」と回答しており、「自分でもできる取組をしたい」など積極的な意見もあり、参加児童の満足度は概ね良好である。			
市民参加の実施	<input type="checkbox"/> 企画 <input checked="" type="checkbox"/> 実施 <input type="checkbox"/> 評価 <input type="checkbox"/> 対象外		市民参加結果への対応		<input type="checkbox"/> 回答 <input checked="" type="checkbox"/> 反映
今後の改善点	環境問題を取り巻く状況は日々変化し、環境教育・環境学習の重要性は高まっていることから、次世代を担う子どもたちへの働き掛けを続けるため、環境教育の各取組において、実施による効果を評価検証しながら、内容の見直しなどを行っていく必要がある。				
前回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
今年度取組んだ見直し内容	さっぽろこども環境コンテストについて、令和4年度も引き続きオンラインで開催するものの、リアルタイムで各団体の発表を配信する形式に変更し、コロナ禍以前の発表会に近い内容とした。		見直し効果額 (前年度)	0	千円
今回の評価	○ A ● B ○ C ○ 評価省略対象事業・前年度実施なし				
評価の理由	それぞれの取組において、一定の参加数や高い満足度は得ているものの、市民の行動変容につなげるため、より効果的な事業を検討していく必要がある。				
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	○ 改善 ● 現状維持 ○ 休止・廃止 札幌市環境教育・環境学習基本方針推進委員会にて各事業の検証を行い、事業に反映させていく。			
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他 引き続き継続して取組を行っていく。		見直し効果額	0 千円